

平成 21 年 4 月 1 日

保護者様

大阪青凌中学校・高等学校  
校長 岩間洋樹  
学校評価委員会

## 平成 20 年度「学校教育自己点検」活動における保護者アンケートのまとめ

### 1、本校の学校評価への取り組み

本校では平成 15 年度(2003 年度)より、実際に進めている教育活動の効果を点検し、次年度へ向けて改善をはかるとい、いわゆる PDCA サイクルの導入をすすめてまいりました。昨年度、こうした点検活動に本校の保護者の皆さまからの評価をプラスすることで、点検活動を一層多角的に行えると考え、全 40 項目のアンケート(5 選択マークシート方式)を実施しました。

今年度も昨年度の結果を踏まえ、質問項目の見直しを行った上で、去る 2 月初旬に 750 人(中学および高校全学年)の保護者の皆さまに用紙を郵送し、回答のご協力をお願いいたしました。その結果、480 人の保護者の方から回答をいただくことができました。回収率は 64% になります。今回のアンケートは、全 30 項目、昨年度より項目数を絞り込みましたが、うち 26 項目は昨年度と同じ項目(一部は同内容の項目)を使用しており、選択肢も同様で「よくあてはまる・ややあてはまる・あまりあてはまらない・まったくあてはまらない・わからない」となっております。

以下は、その検討結果をまとめたものです。

### 2、保護者アンケートの結果について

昨年度の分析手法に準じて、選択肢の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を選ばれた合計人数の比率を「プラス評価」、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を選択された合計人数の比率を「マイナス評価」の数値とみなしました。

まず、選択肢の「わからない」の比率が高かった項目について検討をいたします。これには「取り組みが不十分」という場合と「情報提供が不十分」という場合の両方があると考えられます。いずれにしても本校の教育活動を点検する上で、「わからない」という回答そのものを無視できないと考えます。また、昨年度結果との比較を通して、この 1 年間に本校が取り組みを改善できたかどうかを判断できる可能性もあります。

次に、「プラス評価」が多かった項目を中心に昨年度との比較を行います。これらの項目は現在の本校の教育活動における強みであり、その活動が保護者の皆さまに「まあまあ望ましい」と判断いただいたものだと考えます。それが何故実現できているのかを確認し、現状に満足せず、さらなる向上をはかることで、本校への信頼度も一層高まるものと思います。

3 つ目に、保護者の皆さまの回答中、「マイナス評価」が多かった項目を取り上げます(その中で、「わからない」の回答率が 25% 以上のものは、このあとの(1)での検討に回します)。ここはまさに、本校の弱点(実施状況、教育成果、情報提供のいずれかまたはその複合において)が表現されている部分だと判断しています。その原因を考えるとともに、本校教育活動上の重要性が高いと判断される項目については、具体的改善策を進める必要があると考えています。

- (1) まず、保護者の皆さまが「わからない」と回答された比率が 25% 以上の項目は、30 項目中、以下の 4 項目でした。

学校は温暖化やリサイクルなどの環境問題について留意している

・・・「わからない」48%

昨年度も回答者の50%が「わからない」と答えられました。

「プラス評価」(よくあてはまる・ややあてはまる の合計) 35% (昨年度27%)

「マイナス評価」(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない の合計)  
17% (昨年度23%)

平成20年度には、一部缶入り飲料のリサイクルや校内文書での反故紙の利用などに着手しております。そのあたりを少し評価いただけたのかもしれませんが、まだまだ環境問題への取り組みを進める余地はあります。その一つとして平成21年度は教職員ベースでの光熱水費の節減を通して、電気・ガス・水道の使用上のムダを減らすことに取り組みます。また、今夏も教職員のクールビズ期間を設定し、エアコン温度設定の目安を設け、省電力をはかる予定です。

**学校のホームページは必要な情報を備えている・・・「わからない」32%**

「プラス評価」 54% (昨年度54%)

「マイナス評価」 14% (昨年度15%)

ほぼ前年と変わらない結果でした。ホームページをご覧いただいているのは様々な方で、それによって必要とされる情報も異なってまいります。その点で発信情報の内容を絞り込むことには、むずかしさがあります。今後は、在校生向け、保護者の方向け、卒業生およびその保護者の方向け、受験生およびその保護者の方向け、とそれぞれに必要な情報をできるかぎり更新頻度を上げて提供していくことを心がけます。

なお、5月下旬を目途に現在の本校ホームページをリニューアルする予定です。

**学校や教員に保護者の声が届いている・・・「わからない」31%**

回答者の51%の方に「プラス評価」をいただいておりますが、引き続き問題点を点検いたします。

例えば、学級懇談会でいただいた皆さまからのご意見は、担任を通して報告書の形で提出・回覧されます。その中ですぐ着手できることについては関係部署に必要な指示を出しております。ただ、ケースによっては検討その他の手順を踏むため、即応性にかける部分があるかもしれません。

なお、昨年度の調査にはこの項目の類似質問は設けておりませんでした。

**学校は読書活動に熱心に取り組んでいる・・・「わからない」25%**

「わからない」 25% (昨年度28%)

「プラス評価」 51% (昨年度46%)

「マイナス評価」 24% (昨年度26%)

『青凌生のための読書案内』第3集は平成21年2月に完成しました。今回は、100人以上の生徒がお薦めの本の紹介文を寄せています。教員および生徒の図書委員会活動も前年より動きが増えたと思います。アンケートにおける「プラス評価」がやや増えたのはそのあたりの反映かもしれません。

平成21年度は図書館司書と図書委員会との連携を強化し、相互に協力してより多くの生徒が図書室に足を運ぶような工夫をすすめます。また新着本情報その他を図書室通信として発信してきましたが、その頻度を上げてアナウンス効果を高めます。

(2) 質問に対して、70%以上の方が「プラス評価」の回答をされたのは全30項目中19項目ありました。

その中で、昨年度より「プラス評価」の回答率が増加あるいは現状維持であった項目は以下の通りです。

子どもは学校の夏期・冬期講習によく参加している 85% (昨年度79%)

学校は授業参観をはじめ保護者が来校する機会をよく設けている	90% (昨年度86%)
保護者への事務連絡や文書配布は適切である	90% (昨年度86%)
学校の生徒指導の方針に共感できる	81% (昨年度72%)
学校は生徒に社会のルールを守る態度を育てている	77% (昨年度71%)
学校は生徒に将来の進路や職業について適切な指導を行っている	77% (昨年度75%)
学校は進路ガイダンスなどを通して保護者に進路情報を適切に提供している	74% (昨年度70%)
子どもは楽しく学校に通っている	82% (昨年度81%)
子どもは学校行事に積極的に参加している	83% (昨年度75%)
学校は保護者に教育方針をわかりやすく伝えている	76% (昨年度75%)
学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている	71% (昨年度67%)
学校の施設・設備、学習環境は整備されている	73% (昨年度70%)
学校では先生・生徒ともに挨拶がよくできている	81% (昨年度81%)

(3) 質問項目に対して、「マイナス評価」が20%以上あったのは、以下の通りです。

子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる	「プラス評価」 46% (昨年度47%)	「マイナス評価」 52% (昨年度52%)
クラスの状況が学級通信などで保護者によく伝えられている	「プラス評価」 61% (昨年度68%)	「マイナス評価」 32% (昨年度26%)
学校の施設・設備、学習環境は整備されている	「プラス評価」 73% (昨年度70%)	「マイナス評価」 22% (昨年度24%)
学校からの宿題や課題は質量ともに適切である	「プラス評価」 55% (昨年度63%)	「マイナス評価」 21% (昨年度22%)

生徒の家庭学習状況の改善については本校の重点項目として位置づけており、今回の学校評価以外の調査においても点検を行ってまいりました。残念ながら、それらの結果でも今回の保護者アンケート結果と同様の傾向が見られまして、全体として生徒の家庭学習状況の改善はあまり進んでいないと判断しております。

実は、今回のアンケート中、選択肢の「まったくあてはまらない」の回答率が10%を超したのは、全30項目で唯一この項目(「子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる」)のみでありました。その意味でも、これを放置しておくことはできません。

また、「学校からの宿題や課題は質量ともに適切である」という項目への「プラス評価」が昨年度より低下(63% 55%)しているのも、生徒の家庭学習状況が望ましい形で進んでいないことを裏打ちするものと思えます。

各教科においては、それぞれの科目にシラバスを用意し、どのような手段でその学習内容を定着させるかについて工夫を重ねておりますが、生徒が授業を聞くだけでその教科内容(特に高校の場合)を理解することは容易ではありません。

問題を解くという学習方法にどれだけ時間を確保できるか、またその効率がどの程度のものなのか、などによって生徒の理解度・定着度は大きく差がつかます。

残念ながら、生徒の家庭学習状況の改善については、この1年間で有効な方向に進みだしたとは言い難いと思えます。このことは、日本社会全体で懸念されている傾向とはいえ、本校生徒においてその改善をはかることは、保護者の皆さまの願いに応える

ことであるとともに、生徒が望む進路獲得を実現するための土台ですので、引き続き平成21年度においても最重点項目の1つとして位置づけてまいります。

「クラスの状況が学級通信などで保護者によく伝えられている」

「プラス評価」61%（昨年度68%）、「マイナス評価」32%（昨年度26%）

現状では、学校からの情報発信は文書ベースでは相当量あります。ただ、生徒が手渡さないために保護者の方の手に届いていないという声も多く、これを補うものとして平成20年度から携帯配信メールを使っております。しかし、これまでのところ登録者が限られているために十分機能してきたとは言えません。この点は平成21年度に学級電話連絡網を廃止することと連動して、保護者の皆さまに対しメールアドレスのご登録をお願いすることで改善をはかります。

「学校の施設・設備、学習環境は整備されている」

「プラス評価」73%（昨年度70%）、「マイナス評価」22%（昨年度24%）

昨春、新C棟（エクセルホールと中学HR教室）が竣工し、その2年前のD棟校舎（高3HR棟）、その前年の創青館（コラボレーションスペース・図書室・視聴覚教室）と一連の建物が揃ったことなどを評価いただいたものと判断しております。小規模ながらも、より安全・快適に過ごせるスペースを整えてまいりたいと考えます。

### 3、今後に向けて

アンケート結果を踏まえ、各部署において関連する項目の具体的改善策を検討し、平成21年度中の改善をはかります。教務部・生徒指導部・進路指導部はもちろんですが、安全保健委員会・図書委員会・人権教育委員会・制服委員会・食堂委員会といった教員の委員会においても、改善に向けた活動をすすめます。

生徒会活動や生徒の委員会活動との連携をはかり、全校的キャンペーンの展開など、生徒を巻き込んだ教育活動を進めます。

生徒集会や学年集会・HRを通して、生徒への情報発信と啓発を一層進めます。よりよい学校作りは教員の手だけでは無理であること、生徒の協力があってはじめて実現できることを訴えてまいります。

平成21年度の学校評価アンケートについては、次のようなスケジュールで進めようと考えます。

11月：アンケート項目の見直し・検討

12月：保護者の皆さまにアンケートを郵送

1月：アンケート集計および集計結果の検討とまとめ

2月：上記のまとめを職員会議等で教員に提示

3月：職員会議での検討結果を踏まえ、最終報告を作成し学園理事長に提出

平成22年4月：保護者総会ならびに学級懇談会で報告

以上のように、平成20年度本校教育活動についてのアンケート結果を検討いたしました。

最後になりましたが、アンケートへのご協力誠にありがとうございました。

また、アンケート中の最後の項目「大阪青凌に、子どもを入学させてよかったと思っている」に対しまして、「プラス評価」82%（「あてはまる」47%、「ややあてはまる」35%）という結果をいただきましたこと、たいへん嬉しく存じます。と同時に、教職員を上げて本校の使命をあらためて確認し、今後とも、さらにそれぞれの職責をはたしてまいり所存です。引き続き本校の教育活動へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

以上